氷川中の風

文責：校長
中島綱紀

NO. 2

先輩たちから下級生へ

５月１０日（火）の生徒集会での一場面です。早朝から体育館で会場設営をしていた３年生たちが元気なあいさつで、後から来る１・２年生を入口で迎えます。気恥ずかしそうに入場する１・２年生たちは、先輩たちからのあいさつのシャワーを受けて襟を正します。緩んでいた心が締まります。入場してから着座するまでの集団行動が弛んでいれば何度もやり直しをします。集会があるたびに繰り返される一コマです。小さなことですが、これも地道に受け継がれてきた伝統です。

一年生たち、これが中学校生活です。

熊本地震に関係した余震が続きました。一年生たちも、ようやく落ち着いての授業がスタートしました。小学校とは違って、教科によって先生が変わります。いろんなタイプの先生が個性ある授業をします。“勉強だけが中学校生活じゃない。部活も行事も楽しいよ。休み時間の友達とのおしゃべりも楽しいよ。”と心でささやきながら、**「しっかり先生の目を見て話を聞きなさい。」**と叱咤激励して回るちょっとうるさい校長です。

沖縄の空から

今年も２年生は修学旅行で沖縄へ行きました。最後の一泊二日は離島の伊江島民泊でした。山登り、海水浴、子牛の世話、郷土菓子づくり、海水浴。別れの朝のフェリーは涙、涙。波止場で見送るおじいとおばあたちが見えなくなるまで手を振りました。**「島の空と熊本の空はつながっているさ。つらくなったら見上げなさいね。島のみんなが応援しているよ。」**と、しわだらけの顔のおじいが最高の笑顔で話してくれました。

余震が続いた夜、氷川中グランドで車中泊された方々へ

夜間に使用された本校の屋外トイレをとてもきれいに使っていただきました。掃除をしていただいたこともありました。グランドにはごみ一つ落ちていませんでした。車中泊されているみな様が余震を気にしながらも周りの人を思いやられるやさしさに心打たれました。あの夜避難されていたみな様が、その後心和やかに過ごされていますよう祈っています。